

平成27年度 公益財団法人米沢上杉文化振興財団運営自己評価（最終報告）

《 評価の考え方 》

- ・ 当財団の目標、運営方針及び事業活動方針にもとづいて行われる、財団の業務・活動の全般を評価対象とする。
- ・ 業務・活動は、本年度事業計画に記載された具体的な取り組みについて、個々の事業の達成度合いをそれぞれの担当が評価する。
- ・ 可能なものは数値目標を掲げ、それ以外の目標も評価しやすい具体的な表現を心がける。
- ・ 達成度は右に掲げる4段階で評価し、平均値で表示する。
- ・ 評価結果から成果と課題を抽出して共有し、具体的改善策を講じて財団運営及び組織活動の改善を図る。

- 4：高い成果が得られている(95%以上)
 3：一定の成果が得られている(80%以上)
 2：まだ課題がある(80%未満)
 1：成果が得られていない(50%未満)

事業名	活動方針	具体的取り組み(評価基準)		達成度	担当	成果(○)	課題(■)及び改善策(□)
(1)歴史・芸術文化の調査研究・公開展示等に関する事業	①上杉家・米沢藩ゆかりの資料及び郷土作家作品の調査研究・収集を体系的に進める	歴史関連	米沢藩・上杉家ゆかりの資料の発掘と追跡に努める	2.0	2.3	学芸	○古写真約900点を整理し展示に活かした。 ○幕末期の10点を翻刻し基礎調査を行った。
			上杉邦憲氏寄託資料の概要調査と整理を進める	2.3			
			上杉家文書の調査を継続して進める	2.8			
		美術関連	米沢・置賜ゆかりの作家及び作品の調査、情報収集を進める	2.5	2.2		
			上杉本洛中洛外図屏風に関する情報の収集と整理に努める	2.0			
			上杉家能楽関連工芸品調査を進める	2.0			
	今年度開催する企画展の展示資料の調査及び解説を計画的に進める	3.0	2.7	○米沢藩の医家資料について新資料が発掘できた。 ○78件78点の資料を購入し、138件約2,900点の資料の寄贈を受けた。 ○「紙本着色徒然草図六曲屏風」が県指定文化財とされた			
	平成28年度以降開催予定企画展の調査を計画的に進める	2.5					
	受贈及び購入する資料・作品を慎重に調査し、良質な資料の収集に努める	2.5					
②地域の人が郷土を知り、観光客に感動を呼ぶ魅力的な展示をめざす	企画展示	特別展「国持大名上杉家」職員評価平均値	3.5	3.4	学芸	○企画展示6本中5本が入館見込み数を超えた。 ○米沢藩の医療の歴史など、過去に取り組んだことのないジャンルの展示を含め、多様な展示を開催した。 ○戦後70年をテーマとした企画展を実施した。	■業務全体量との兼ね合いから展覧会準備にあてる時間、マンパワーが不足している。
		入館見込数を上回る	4.0				
		コレクション展「悲喜交々のアート」職員評価平均値	2.5				
		入館見込数を上回る	2.0				
		企画展「昭和90年昭和幻風景」職員評価平均値	2.5				
		入館見込数を上回る	4.0				
		特別展「米沢藩医家の系譜」職員評価平均値	3.1				
		入館見込数を上回る	4.0				
		企画展「生誕100年浜田浜雄」職員評価平均値	3.6				
		入館見込数を上回る	4.0				
	企画展「上杉家の古写真」職員評価平均値	3.0					
	入館見込数を上回る	4.0					
	常設展示	職員評価を適時に行い成果や課題を明らかにする	2.8	2.5	総務	○テレビ放映や人気ゲームを反映したミニ展示を実施した。	□課題に対する中長期的な改善計画を策定する。
		次年度以降の展覧会の諸準備を計画的に進める	2.3				
文華館「上杉家文書にみる幕末の米沢藩」を12のテーマで紹介する		4.0					
リニューアルに向けて問題点や課題を整理する		1.5					
③資料情報管理の一元化とデジタル・アーカイブ化を進め、情報の提供に努める	新規受入資料のデータベース登録進捗率100%をめざす	4.0	2.8	学芸	○中條家文書の調査、目録作成を行った。 ○公開資料の選択を行い内容を充実させた。 ○彫刻(木彫)、歴史資料(古文書)の修復を行った。	■人員と時間の不足、データベースの不具合もあり、登録資料の内容を速やかに充実させることが難しい。 □データベース登録資料名付与の統一調整を進める。	
	未受入資料及び寄贈・寄託資料の調査・受入作業を計画的に行う	2.3					
	館蔵資料・作品の修繕・修復作業を計画的に進める	2.5					
	資料の燻蒸、収蔵庫のクリーニング、IPM(総合的病害虫管理)を適切に行う	2.5					
	市立図書館郷土資料とのデータ管理一元化及び調整に努め、円滑に公開する	2.5					

事業名	活動方針	具体的取り組み(評価基準)		達成度	担当	成果(○)	課題(■)及び改善策(□)				
②教育普及に関する事業	①日常的な地域学習の場となる多様なプログラムを用意し、博学連携を推進する	教育事業	ブレイクショーは手わざ・あそびを柱に展開し昨年度の入場者を上回る	3.0	3.1	学芸	○多彩なプログラムを展開できた。 ○新規プログラムで集客ができた。 ○研究授業などで継続した利用があった。 ○チルドレンキュレーターズに新規3名加入した。 ○古写真展において上杉伯爵邸との連携事業に取り組んだ。	■体験学習室の造形プログラムが隔月更新になったことで、利用者から毎月更新を望む声も聞かれた。 □同一の内容の中に変化をもたらすよう工夫する。 □体験学習室の冷暖房設備の修繕計画の具体化を再度市に要望する。			
			ワークショーは「つくる」をテーマに定員の80%以上の申込数をめざす	3.0							
			出前授業とミュージアムスクールを合わせて年15時間以上実施する	4.0							
			チルドレンキュレーターズのプログラムを更新し育成に努める	3.0							
			米沢市中学生チャレンジウィークを受け入れ、趣旨に沿って指導する	3.3							
			博物館実習とインターンシップ指導プログラムの充実を図る	3.3							
			近隣の交流館との連携事業を検討する	2.3							
			エデュケーショナル・ライブラリー・プロジェクトに協力する	2.7							
	②生涯学習施設また地域の交流拠点として、市民の学習と活動の機会を提供する	教育事業	特別展の理解深化を目的に年3回程度の講演会を開催する	3.8	3.4	学芸	○講演会は好評で、理解を深めることができた。 ○ギャラリートークは好評で、展覧会の盛り上がりを見せた。 ○片桐文庫126冊を受け入れた。	■前年度分を含め図書の入りが円滑に行われず、配架が滞ることがあった。 □レファレンスの受付方法や図書館との分担を整理・検討する。			
			1企画展ごとに会期中2回以上のギャラリートークを開催する	4.0							
			文華館では小テーマごとに計12回のコレクショントークを開催する	4.0							
			情報ライブラリーの図書・視聴覚教材の充実と管理に努める	2.8							
			上杉家・米沢藩の歴史理解に資する映像ソフトを新規に制作する	3.3							
			レファレンスに丁寧に対応し、回答のデータベース化を進める	2.8							
	普及事業		上杉博物館年報(26年度版)と伝国の杜だより(年2回)を発行する	4.0	3.2	学芸	○年報、だよりとも予定通り発行できた。	□夏休み子どもミュージアムめぐり(県事業)は27年度で終了となったため、引き続き館独自でも夏休みを念頭に置いて集客を検討していく。			
			チラシやポスター等の紙媒体を効果的に活用しPRIに努める	3.3							
			館蔵作品を市内の公共施設に貸し出す(年2回)	4.0							
			夏休み子どもミュージアムめぐりの参加者数が前年度を上回る	2.7							
			毎月の普及ミーティングを通してスタッフの資質向上をめざす	2.8							
			各種評価やアンケートを実施し、集計・分析する	2.5							
			ホームページ、ブログ、フェイスブックの充実と努める	3.5							
			ポケットスケジュールを製作し広報に努める	4.0							
			有料・無料の広告媒体を積極的に活用して広報に努める	4.0							
			内覧会の設定等を工夫し、1回あたり20名超の参加をめざす	3.0							
	施設貸与事業(博物館会議室)		貸出基準にもとづいて適正に貸与する	3.0	3.3	舞台	○会議室利用者数は前年度比134%だった。	□受付業務に伴う事務処理を正しく円滑に行う。			
			金銭処理や利用実績の管理及び各種報告を適時適切に行う	3.0							
			利用者のニーズを把握し、前年度実績を上回る利用をめざす	4.0							
サポーターの活動機会を広げる年間活動プログラムを策定する			3.0	2.9					サポーター担当	○「伝国の杜サポーター活動に関する要綱」を制定した。 ○サポーターの県外研修(東京国立博物館、東京都美術館)を実施した。	■サポーター通信の発行が定期的に行き届かなかった。 ■館内での全体研修の実施ができなかった。 □年間活動計画を作成し、それに沿った活動を行う。 □全体研修の実施を計画する。
サポーターと職員との協働機会の拡大に取り組む			3.0								
登録数及び活動人数を増やす			3.0								
「洛洛屏風」案内人を新たに5名程度養成する	1.5										
サポーター通信を定期的に(年4回)発行する	3.0										
よりよい活動に資するため年2回の館内研修を実施する	3.0										
他館見学や交流を目的に館外研修を実施する	3.5										
ファンクラブ事業		広報活動を強化し300人の会員登録をめざす	4.0	3.5	ファンクラブ担当	○設立以来初めて300人を達成した(新規31%)。 ○ファンクラブ事業「ご近所再発見・秋のミニツアー&交流会」は好評であった。	□増加した会員人数を毎年維持し、利用率を向上させるために特典の活用等について再度PRする。 □会員に速やかに情報提供できるよう広報物の発送時期を調整する。				
		ファンクラブ会報(年2回)及び各事業情報を適時に送付する	3.3								
		特典見直しの可否及びニーズ検証のため会員動向調査を継続する	3.0								
		ファンクラブ会員事業を年2回開催する	4.0								
		博物館及びホール事業未利用会員を10%未満に減らす	3.0								

事業名	活動方針	具体的取り組み(評価基準)		達成度	担当	成果(○)	課題(■)及び改善策(□)	
③芸術文化活動	①新たな文化を創出する活動の場及び優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供する	県事業 (地域文化力育成事業)	Jazz Café Live① 職員評価平均値	3.0	3.5	舞台	■カフェを会場としたコンサートでは会場規模と客席数の調整がうまくいかず、来場者に快適な空間を提供できなかった。 □適切な客席数とし、客席配置に配慮する。	
			入場見込数を上回る	4.0				
			Jazz Café Live② 職員評価平均値	2.8				
			入場見込数を上回る	4.0				
			Jazz Café Live③ 職員評価平均値	3.1				
			入場見込数を上回る	4.0				
		親子でたのしむ音楽会 職員評価平均値	3.3					
		入場見込数を上回る	4.0					
		市事業	「奇跡の歌姫・渡辺はま子」(昼夜2回) 職員評価平均値	3.0	3.0	舞台		○戦後70年をテーマとした演劇公演を実施した。 ○公募助成事業「奇跡の歌姫」「書く女」を実施した。 ○初めて「避難訓練コンサート」を実施することができた。 ■事業ごとの工程管理が不十分で適時に決算準備を行うことが出来なかった。 □クロスチェックの仕組みをつくり、進捗状況を適時報告する。 ■文化ホール自主事業開催時の避難マニュアルの整備が不十分である。 □避難マニュアルの整備を進める。
			入場見込数を上回る	4.0				
	「山形交響楽団ユアタウンコンサート」 職員評価平均値		2.7					
	入場見込数を上回る		2.0					
	「吹奏楽の日コンサート2015」 職員評価平均値		2.8					
	入場見込数を上回る		4.0					
	「書く女」 職員評価平均値		3.2					
	入場見込数を上回る		4.0					
	「避難訓練コンサート」 職員評価平均値		2.8					
	入場見込数を上回る		1.0					
	県事業 (能楽関係事業)	「伝国の杜新春寄席」 職員評価平均値	2.8	2.4	舞台	○こども狂言クラブの幼児クラスの指導が充実した。 ○こども狂言クラブの第3回「酒田の狂言」への出演は大変好評だった。		
		よねざわ市民ミュージカルの育成を支援する	4.0					
風の香狂言会in置賜 職員評価平均値		2.8						
入場見込数を上回る		2.0						
山形県能楽の祭典 職員評価平均値		2.7						
入場見込数を上回る		2.0						
伝国の杜こども狂言クラブの新規受講者を5名以上確保する	2.0	3.0	狂言クラブでは年15回以上の稽古、年5回以上の発表を行う	4.0				
狂言クラブでは年15回以上の稽古、年5回以上の発表を行う	4.0							
事業概要書及び広報計画書を適時に作成する	事業のチラシやポスターを適時に制作し広報を強化する	自主事業入場者へのアンケートを実施・集計し分析する	自主事業の職員評価シート項目を整理し適時に評価を行う	地元の若手音楽家たちの活動を支援する	2.5	3.2	舞台	○客席アンケート回収率をあげる事ができた。 ■事業評価の開催時期が遅れた。 □事業計画及び広報計画を適時に作成し、評価につなげる。
					3.0			
					4.0			
					2.5			
					4.0			
④歴史・芸術文化活動拠点の運営に関する事業	①上杉文化及び郷土作家に関する研究拠点をめざし、広く開かれた施設をめざす	資料整理	館蔵資料の解説、目録作りを計画的に進める	2.3	2.4	学芸	○洛洛案内人の活動では3月までで132回、約1,340人を案内した。 ■洛洛案内人のさらなる養成と、活動人数の増加を図る。	
			館蔵資料の写真撮影を計画的に進める	2.3				
			館蔵資料の公開を継続して進める	2.8				
		教育・普及事業	資料の特別利用・貸出及び掲載許可は規則にもとづいて行う	3.3	3.5			
			年間2冊以上の企画展図録を編集・発行する	4.0				
			必要に応じて学芸員による展示案内を行う	3.5				
	サポーター洛洛案内人による国宝屏風の説明を日常化する		3.3					
	年間10回程度、各種研修会の講師として成果を市民に還元する	3.3						

事業名	活動方針	具体的取り組み(評価基準)	達成度	担当	成果(○)	課題(■)及び改善策(□)		
	ミュージアムショップ事業	商品の陳列・宣伝など、展覧会と連動した運営を行う	4.0	3.9	総務・Sチーム	○刀剣特別展示期間中に、五虎退、姫鶴一文字のオリジナルグッズを製作し、特に若い女性達から好評を得た。	□取り扱い商品の見直しを進める。 □来館者に喜ばれる商品の開発に取り組む。	
		前年度と年度途中の販売実績により販売商品の選定を行う	4.0					
		展示に関連する在庫図録の販売を積極的に行う	4.0					
		新規商品の開発に取り組み、一つ以上製品化する	4.0					
		利用者の利便性と販路拡大のためWebショップを継続する	4.0					
		他館との間の委託販売に積極的に取り組む	3.5					
		一昨年度比1割増の売上利益をめざす	4.0					
		売上金の処理や販売委託契約、在庫管理を確実に実行	3.5					
	②市民の自主的な伝統文化活動を支援するとともに、地域の歴史の紹介に努める	芸術文化活動のための施設貸与事業	平等性・公平性を念頭に使いやすく喜ばれる運営をめざす	4.0	3.8	総務		■利用者の高齢化と若年者の利用減の傾向がみられる。 ■建物自体の老朽化が進行している。
			貸出基準にもとづいて適正に貸与する	4.0				
			施設の宣伝に努め、利用件数・利用者数で前年度を上回る	3.0				
			施設・設備の更新を計画的に進める	4.0				
		座の文化伝承館自主事業	3事業を開催し、地域の文化振興と歴史の紹介に努める	3.7	3.6	舞台	○市民茶会の入場者が増えた(221人)。	■蔵ステージ公演の広報が十分でなかった。
			市民茶会への入場者200名以上をめざす	4.0				
		蔵ステージ公演の入場者60名以上をめざす	4.0		学芸			
		「浜田浜雄の貴重書」展の入場者200名以上をめざす	3.0					
		サポーターとの協働を積極的に進める	3.5		サポ担	○サポーターと一緒に展示準備作業を実施した。		
(5)財団の適正な運営に必要な事業	①経営基盤の安定と利用者増及び収入の確保に努める	博物館の利用者数(展示・教育普及事業の計)は前年度実績を上回る	3.0	3.7	総務	○上杉文化エリア懇話会会員の協力を得て冬期間の入館者を増やした。 ○2件110万円の寄附金を受領した。	□上杉文化エリア懇話会会員との連携を進める。	
		博物館入館料は収入見込み額を確保する	4.0					
		50万円を目標に寄附金受け入れ業務に積極的に取り組む	4.0					
		文化ホール入館料は収入見込み額を確保する	4.0					
		各種使用料は前年度実績を上回る	2.0					
		財団運営に必要な各種研修会・研究会等へ計画的に派遣する	3.0					
		予算の執行及び財務管理を適正に行う	3.0					
		新図書館等の指定管理者として必要な準備を計画的に進める	4.0					
	②文化・観光拠点としてポストDCに取り組み、米沢・上杉の歴史と文化を発信する	観光拠点の一つとして、米沢四季のまつりに積極的に参加する	ポストDCに取り組み、「観るパス」等を推進する	4.0	4.0	総務	○ポストDCに積極的に取り組んだ。 ○こどもの日(5/5)小中高無料、国際博物館の日(5/18)、文化の日(11/3)を全員無料入館とした。 ○催事告知用環境映像制作マニュアルを整備した。	
			施設内外の案内表示及び催事看板の修理・充実に努める	4.0				
			博物館無料入館の日の周知・広報に努める	4.0				
③来館者と職員の安心・安全を第一に、施設設備の管理及び危機管理に取り組む	来館者対応と職員の意向を踏まえ、職員勤務割振りを作成する	施設・設備の定期点検と修理・更新を計画的に進める	4.0	4.0	総務	○モールの環境モニタを更新した。	■業務や事業の見直し・精選による時間外労働や多忙感の縮減に努める。	
		置賜の庭及び行屋の維持管理に努める	4.0					
		火災や地震を想定した避難訓練を年2回実施し、職員の対応力を高める	4.0					
		職員の健康診断に関する業務を円滑に進める	4.0					
		スタインウェイ・ピアノ開放デー及び避難訓練コンサートを開催する	3.0					
④複数の内部・外部評価に取り組み、運営やサービスの改善に努める	財団運営の目標及び方針を明示し、内部評価システムを整備する	複数の評価に取り組み、事業やサービスの改善・向上に努める	3.0	3.3	常務局長	○運営協議会での意見や助言を事業の改善に活かした。 ○山形労働局、米沢労働基準監督署からの指摘に対応し、規程等を整備した。		
		伝国の杜運営協議会を年2回開催し、運営や事業の改善に努める	3.0					
⑤座の文化伝承館の次期指定管理者を受託すべく申請業務を進める	申請業務を計画的に進める	次期指定管理者を受託する	4.0	4.0	総務	○座の文化伝承館の指定管理者を受託した。		